

## 議 事 録

## ファッションビジネス科 教育編成委員会ミーティング

日 時	2023/8/25 金曜日
場 所	東京服飾専門学校(3階ホール1・2教室) 豊島区巢鴨1-19-7
企業出席者	株式会社アズノウアズ 執行役員 管理本部長 中村 潤様 一般社団法人 日本アパレル・ファッション産業協会 事務局長 境 泰志様 有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田えりこ様 ソーイングアサヒ株式会社 代表取締役 高橋英一朗様 東京服飾専門学校 山下校長 久野麻衣 副田勝久 細野敏彦 大島佐和子 石川誠
欠 席 者	1名
概要	1.学科カリキュラムの編成と変更点、留意点について 2.産学連携、職業実践体験プログラム実施内容について 以上について業界の求める人材を学科として育てているか、意見を収集して改善を図る
内容	<p>開会の挨拶 ◆理事長よりご挨拶 「入学志願者は安定して推移しています。就職難対策として、昨年度に引き続き研究生制度を設け、就活の指導や研究会を設けています。また現在、次世代教育の形態としてデジタルトランスフォーメーション(DX)化を進めています。オンラインによる非対面授業のあり方、手法の改善と向上。デジタルツールを駆使した対面授業のさらなる改善を図り、次世代のビジネス環境に沿った人材育成を行いたいと考えております。より一層の産学連携を図りたく今後ともご指導よろしくお願いたします」</p> <p>議事進行 ・教育課程編成委員会の趣旨を説明。 ・学内位置付けと、教育内容向上へどう努力すべきか。 ・今回の教育編成委員会の目的と議事項目の紹介。 ・出席者紹介</p> <p>【副田】 パイプ作りを目的とした業界団体への加盟状況を説明 ・日本アパレル・ファッション産業協会 ・日本アパレル工業技術協会 ・日本モデリスト協会 ・東京婦人子供服縫製工業協会</p> <p>【石川】 産学連携実習 前期実績・後期予定について ビジネス科2年生対象 ・株式会社キャン様 「売れるお店の条件&amp;新規出店提案」 ・株式会社ステップス様 「ECデモページ作成」</p> <p>後期予定 9月～ アッカインターナショナル様 「EC倉庫見学」 11月～株式会社アバハウス様 「ブランドPR展示会の開催」</p> <p>造形系(デザイナー・パタンナー科)2年生対象 ・株式会社ベネフィット様 「グラフィックTシャツデザイン作成」 ・株式会社ステップス様 「デニムリメイクアイテム製作」(実施中)</p> <p>予定 10月～株式会社アバハウス様 「ブランドPR展示会の開催」</p> <p>【各参加者様 ご意見】 ビジネス科</p> <p>中村 様 産学連携実習で企業様との接点を持たれているが、そのリアクションを見るとなかなか、難しいと感じている。どうすれば学生が興味を持ってくれるのか、企業側も頭を悩ましているのが現状。就業の入り口としての販売職としてはまだ意識が足りていないと思う。アパレルで働くには接客は避けて通れない。就職への王道をあらためてアナウンスしたい。</p> <p>境 様 アパレルの概念がここ10年で変わってきている。アパレルではなくファッション企業。守備範囲が広がっている。ぜひ、若い世代がファッション業界に定着して欲しい。 昨今、多くの企業が扱う商品は洋服が5割、その他雑貨靴バック帽子などそれらを含めてファッション。それ故、新しいマーケット・仕事も生まれている。 いろんな可能性があるので学生を後押しして欲しい。モノづくりの技術を持つ学生。デザイ</p>

	<p>ナー、パタンナー、生産管理など繋ぐ技術をもつ学生。バイヤー、販売、EC、SNS等、伝える技術をもつ学生。VMD、プレス、スタイリスト、ファッションエディター、フォトグラファーなど</p> <p>支える技術。物流、在庫管理、デジタル技術。特に繋ぐと伝えるには一番興味がある。そう言ったものが今の学生が身につける武器になっているのではないか。</p> <p>ビジネス科課題</p> <p>就職活動が例年より若干、鈍化している。</p> <p>様々な職種を指し示し就活指導が必要であり、業界への定着率を上げること。</p> <p><b>【対応策】</b></p> <p>アパレル業界の現状を説明し、理解を深め、もっと視野を広げて最終的にはアパレル・ファッション業界に入って欲しい。業界としても企業としても生き残って行きたい。</p> <p>職種に対してどれくらいのニーズがあるのか、職種ごとに情報共有し対応したら良いのではないかと。→アンケートの実施(可視化)学生の特性を踏まえ先生が勧める仕事と、学生の希望の仕事をすり合わせ(例:希望職種を汲み取り、特化したカリキュラム編成等)</p>
<p>まとめ</p>	<p>理事長より</p> <p>在校生380名 高校三年間マスクをしていた世代である。</p> <p>コロナ禍からの脱却。コミュニケーション能力をどう再構築するか。</p> <p>高校との連携や個々の個性に踏み込んだ対応が必要。</p> <p>学生カルテを作成し、どのようなケアが必要か検討。常に先を見てケアを行っていく。</p> <p>社会に参加する事を諦める学生をケアしたい。</p> <p>日本は厳しい経済状況だが、学生たちに新しい職業のあり方を示す。</p> <p>本会のように各企業様の意見をもらう機会を大事にして行きたい。</p>
	<p>作成者 大島・石川誠</p>